

中国、フグ食解禁へ働き掛け

議員外交の手法駆使 大連訪れ現地視察を予定

大久保 参院議員
(長崎県選出) 3月8日訪中

中国でのフグ食解禁への期待が高まる中、フグ生産日本一を誇る長崎県選出の大久保潔重（ゆきしげ）民主党参院議員（写真）は、「これまで民間外交を展開してきた方の実績を生かし、議員外交の手法も駆使して、中国でのフグ食解禁に向けて働き掛けたい」と話し、3月8日から中国・大連を訪れ現地視察を予定している。今後の展望などを聞いた。（川村）

松浦市は長崎県の中で視察の内容をもって帰った特区認定が実現するよ
も水産基地として重要なからどう進めていくのう、あと押ししたい。
位置付けにある。これをがいかに戦略を考えた
どう伸ばしていくかが大きい。当然、水産庁の専門
国向けの鮮魚輸出なども
切。長崎県では数百年も家にもブレインとして活
活発だが、地域振興の観
点からも長崎県産の水産
物輸出するのはよいこ
と。中国にはあれだけの
人口がいて、日本の食品
は安全・安心、おいしい
との評価をもらっている。
る。日本産輸出全体の増
加につながるべき。
所属している港湾議員
連盟の関係では、3月18
日から中国の上海港を訪
れ、両国の発展のための
取り組みを行う。2月29
日からは上海ー長崎航路
も復活する。今後は、長
崎港あるいは佐世保港と
大連の就航ということも
あるかもしれない。フグ
食からスタートして長崎
と大連の友好が深まれ
ば、さまざまな経済活動
の活性化にもなる。非常
に夢のあるテーマを与え
てもらったと感謝してい
る。



た中、中国国内でのフグ水産団体が知恵を集めて
食解禁というテーマが浮前に進めるようにした
上していることは非常に。外交も信頼関係の構
築こそが大切。顔を合わ
すは、これまで民間
外交として取り組んでき
た方々の話をよく聞い
て、さらには「百聞は一
見にしかず」という言葉
もある通り、中国の生産
流通、消費の現場を見て、
食べている実績もあり、
る。

このほか、長崎では特
区の構想として、フグ肝
の解禁へ向けた動きもあ
る。大分県ではフグ肝を
てもらったと感謝してい
る。